

板橋区体育指導委員協議会

会長 渡邊 忠

元会長 河野 忠美

私は体指に任命(現委嘱)された初年度は広報部に所属し、第41号の「体指だより」を発行しました。今、100号記念の記事を書かせてもらい感無量です。

私が任命された時は、体育館やプール開放の手伝い等ありましたが、今より期待度が薄かった気がします。その後ウォークラリーやドッジボール、体操の普及活動や障がい者スポーツ大会の協力も加わり、同時に各地区青健の重責も担っており、多忙さを極めています。更に文科省の方針で『総合型地域スポーツクラブ』育成にも関わる等、各方面から期待されていますが、知名度は低く、そのことも起因してか10年ほど前から定員割れが続き、現在61名と1割以上不足しています。

板橋区は他区と異なり前出の役割も多く、先々更に要請が増すことも考えられます。これからは関わる事業の見直しを考えつつ、体指自身が定員を満たす努力をし、広報紙を充実させる等、行政の協力も得ながら知名度を高める必要があると思います。

体育指導委員協議会の皆様、広報部の皆様、いたスポ100号の発行おめでとうございませう。

私が、在任中に紙面が色刷りへ変わった時、すごく新鮮な気持ちになったものです。また色刷りになり、写真が紙面を飾ることが多くなりました。区の行事、体育指導委員主催の区民ハイキングまたウォークラリーでの現場で広報部員がカメラを抱え走り回る姿。ハイキングでは、班ごとに撮影し、参加者に喜ばれたことを思い出します。

また、広報部には全国体育指導委員連合で写真コンテストに入賞したことも良い思い出です。これからも、区民の皆さんに楽しんでいただける「いたスポ」を編集・発行して下さい。

体育指導委員協議会の皆様の益々のご活躍を期待しています。

元広報部長 飯尾 美記

東日本大震災の年に「いたスポ」発行100号とは忘れられない号になりますね。

現在に至るまで多くの先輩方が築いてこられた広報紙に、少しでもかかわりを持つたことを誇りに思います。

私が広報部に所属し、いたばし体育指導委員だより73号から90号まで関わっていた時、多くの紙面を総合型地域スポーツクラブとニュースポーツが占め、広報部としていろいろ取材に行かせていただきました。総合型地域スポーツクラブに関しては、少子化が進むなか真剣に考えなければいけない問題と認識しましたが、なぜニュースポーツなの、既存のスポーツを変化させる必要があるの、と思いましたが、ユニホックを取材に行きその運動量の多さにびっくりしました。またインドアスポーツなので、

天候にかかわらず楽しめる競技ということもわかり、ニュースポーツのよさが少しわかった気がしました。各競技団体がもつと底辺を広げる努力をして子どもから大人まで取り組まなければいけないのではないのでしょうか。

今広報紙について考えると、名称が「いたスポ」にサイズがB5からA4となり、読みやすくなりました。今までの型を変える大変なご努力を先代の広報部と会長がされた結果、いまの広報紙があるのだと思います。

これからも体育指導委員の活動状況を掲載し区民の皆様には是非PRして下さい。

元広報部長 鵜木 けい子

東日本大震災、原発事故と未曾有の災害にあつて、体育指導委員は行政と地域住民との調整としての役割が期待されると思います。

1期目から広報部に所属し、いたばし体育指導委員だより61号から96号まで関わりました。

いたばし体育指導委員だよりが現在のスタイルになったのは70号からで、当時の事務局宮田主事のデザイン。依頼原稿を減らし、写真を多く、取材によって感じたことを記事に、問題提起し、ニュース性のある紙面、独りよがりにならない紙面を心がけました。

ふるさといたばし体操を作成した功績による区民文化奨励賞の受賞(66号)、全国体育指導委員連合フォトコンテストに入賞したことなど思い出深く残っています。

前広報部長 五十畑 祐子

平成13年3月31日発行69号までの広報紙「板橋区体育指導委員だより」の表紙を飾っていた文字は、元板橋区長加部明三郎氏の執筆でした。

多くの方々が手に取り読んで頂けるように表紙と内容も新たに70号より「いたスポ」とリニューアルしたのは、下田会長、本橋広報部長の時でした。

自主事業のハイキングは事業部主体で広報部は参加せず、原稿と写真は依頼でしたが、「依頼原稿は極力減らし、自分たちが足を運び、目と耳で感じたことを紙面に載せていきたい」と役員会に要望を出し、平成12年石老山ハイキングから広報部より2名参加するようになりました。

また、「総合型地域スポーツクラブ」の取材では、都内だけでなく神奈川県遠くは山梨県白州スポーツクラブまで出向きました。

世間にパソコンが普及し始め、広報部も割り付け用紙の手作業とパソコンと並行して紙面作りに役立てていました。ドッジボール大会の集合写真を表紙一面に載せた時は、写真の余分なところ一枚ずつハサミでカットし、大きな紙に貼り付けるなど手作業が多くありました。

平成22年8月1日発行97号よりパソコンを得意とする広報部員の力が大きく、以前の願望でもあった「発行できる状態で印刷業者に」また、「区役所内で印刷をする」ということが今、実現しています。広報紙作成のコストダウンもはかられています。

「いたスポ100号」という記念すべき広報紙に携わることができましたことにお礼を申し上げます。